

教科等		資質・能力	現在の児童の実態や授業についての分析	授業評価を踏まえた授業改善のための具体的な方策
国語	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・「授業評価」からは、90％以上の児童が「学習を通してできるようになったことを実感している」と回答しているが、主技能修得修得の質低（文法）や漢字学習や語の意味（言語）の技能は身についていないことが、学力調査の結果や通常のテストに表れている。児童の意識と知識・技能の差が大きい。 ・「課題を解決するために必要な情報を集めること」や「自分の考えをまとめるために必要な情報を選ぶこと」については、約80％の児童が肯定的に評価している。	【主体的・対話的で深い学び】 ・毎日の授業の中に、漢字の復習問題をする活動を入れること。 ・基本的な文法事項の習得の達成のために、タブレットドリルを活用した反復学習や、漢字のひらばえ等の小単位における学習により、理解を深める。 ・情報を得ることに限しては、タブレット型端末を活用したことが成果として表れている。引き続き、一人一人の児童が、端末を利用し自身の力で情報を得ることができるようしていく。
			・新型コロナウイルス感染症の予防もあり、話し合いや意見交流の授業形態が思うようにならなかった。「授業評価」にも「自分の考えの理由を述べたい」という意見も多かった。また、「自分の考えの理由を説明しながら友達に伝えること」の質問項目で、20％以上の児童が「できない」と回答している。 ・相手意識や目的意識をもつ書くこととが、調べたことを自分の言葉に置き換えてまとめる、整理したりして表現することが苦手であり、学力調査テストにおいても、記号で回答する問題に比べ、記述式回答で時間をとってしまいう児童が多く見られた。	・話し合いや交流ができない状態を補うことができるよう、調べたことを箇条書きで整理したり、友達の発言を聞いたりしながら、それをもとにして自分の考えを構築していく方法を学ばせる。 ・日常の学習活動の中で、文章を書く機会を多くすると教師が心がける。 ・付箋や粗紙を用いることによって、文章を組み立てて段階的な文章を書くことができるようにする。 ・モデル文を示し、どの児童にも具体的に文章がイメージできるようにする。
			・「学習のめあてを達成するために自分なりの目標を持つことができた」「学習したいことや解決したいことを考えながら学習する」に関しては、いずれも90％以上の児童が肯定的な回答をしている。 ・「友達の考えのよさや自分の考えに気づく」「友達と話し合うことで、自分の考えが広がったと感じた」「友達と話し合った後にも、もう一度自分の考えをまとめ直す」という人との関わりを通した学びに関しては、25％前後の児童が否定的な回答をしている。	・今後も、単元の展開や本時のねらいに応じて「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を適切に設定し、主体的な学びを促していく。 ・人との関わりと学びについては、まだ充分に時間をとれないが、様々な方法で情報を得ながら、自分の考えを再検討、再構築していくことを通して。授業中に自身の書き上げたものや発言したことを振り返る時間をとるようにする。
社会	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・「授業評価」の質問項目「学習を通してできるようになったことを実感している」に対して肯定的に回答した児童は約80％であったが、「課題を解決するために必要な情報を集めることができた」「自分の考えをまとめるために必要な情報を選ぶことができた」には、約90％が肯定的に回答している。1学期の学習「憲法・政治」や「古代の歴史」など、児童にとっては未知の内容が多かったと思うが、書籍やタブレット型端末から得られる資料を元に、知識を増やしている。	・ノート作りを中心に、歴史上の人物や事象についてどのようにまとめるかを程度形式化し、児童が主体的に調べ学習を進められるようにする。また授業の振り返りに「どんなことが学べたか」を書く活動を毎時間入れ、考えが深められるようにする。 ・引き続き書籍やタブレット型端末を活用し、知識を増やす。
			・政治の動きや歴史上の主要な事象について児童が意見を交換すること時間を充分に取れない。「授業評価」の「自分の考えの理由を述べたい」しながら友達に伝えることができた」「友達の考えのよさや自分の考えに気づくことができた」「友達と話し合った後にも、もう一度自分の考えをまとめ直す」に対し、約25％が否定的な回答をしていることから、意見交流や表現の機会の少なさが伺える。	・調べ学習で表現を増やすことで、一人一人の児童が自身の考えや推察をもち、友達と交流することができるようにする。 ・交流を通して表現を高め、友達の考えより自分では気づけなかったことを補足しながら知識を増やせるようにする。
			・学習内容、得意に歴史への興味関心が高い。「授業評価」でも、約90％の児童が「単元や授業で、学習のめあてを達成するために自分なりの目標を持つことができた」と回答している。	・タブレット型端末や書籍を活用しながら調べ学習やノート作りを行うことで児童の知識や理解を深め、視聴覚教材を提示することでさらに歴史への興味関心が続くようにする。
算数	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・面積、体積、かさなどの単位換算でつまづきがある。 ・整数の四則計算、図形など基本的な内容については定着している児童が多いものの、分数を含めた四則計算であったり、作図したりする問題になるとミスしてしまう児童が多い。 ・学習評価では、82％の児童が既習を使って課題に取り組みていると答えている。	・単元末にタブレット型端末の学習アプリを活用し、個人の学習進度に応じた学習課題に取り組みるようにする。 ・面積や体積を一定あたりの長さに見做して考えさせるなど、分りやすい単位換算の仕方を授業で取り入れる。 ・単元や中間・学期末にこれまでの学習について振り返る時間を設定し、基本的な学習内容の定着を図る。
			・整数のかけ算わり算の立式はできが、小數や分数になると演算決定できない児童が多い。 ・図や数直線を使って、1つの考えをノートにまとめた相手に伝えたりできるようにできている。また、学習評価でも約81％の児童が自分の考えを説明できると答えている。	・数量の関係を捉える場面では、図や数直線等を用いるよさを実感させ、定着させながら、解決の見通しをもたせることができるようにする。
			・友達とわからない所を教え合ったりしながら学習を進め、理解を深めようとする児童が多い。 ・ドリル学習など反復練習を取り組む児童が多い。 ・学習評価では、84％の児童が次に学習したいことを気付かされていると回答した。	・ペアやグループで考えを伝え合いながら、よりよい答えを導き出す授業展開を意図的に行い、他の児童の考えのよさに気づき、深い学びを得られるようにしていく。 ・毎時間の授業や単元末の振り返りの時間に、さらに学習を深めたいと思うことなどを問い、児童からの発信で次の学習内容につなげていくよう工夫する。
理科	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・意欲的に取り組む児童が多い。「授業評価」にも、「課題を解決するために必要な情報を集めることができる」「の質問事項で、約90％の児童ができた」と回答している。「友達の考えのよさや自分の考えに気づくことができた」「友達と話し合った後にも、もう一度自分の考えをまとめ直す」に対し、約25％が否定的な回答をしていることから、意見交流や表現の機会の少なさが伺える。	・学習問題、観察や実験の視点や記録の方法を明示し、自信をもって意欲的に取り組めるようにする。 ・児童が発想した問題解決の方法に対応できる準備をしておく。 ・実験・観察の経過や結果を、タブレット型端末に写真や動画として記録する。
			・感染の予防の観点から、話し合いや意見交流が十分にできなかった。「授業評価」にも「自分やグループの考えをまとめること」や「自分の考えの理由を説明しながら友達に伝えること」の質問項目で、約20％の児童が「うまくできない」と回答している。 ・推察しながら自分の考えをもてる児童もいる一方で、既習事項や生活経験と結びつけて考えを進められぬ児童もいる。	・観察や実験を児童の発想に基づいて展開し、自然事象の特徴や規則性、働き、かわり合いについて、児童相互に見合ったり、話し合ったりする場と時間を確保する。 ・タブレット型端末に記録した映像等を確認しながら、学習問題に則して考察させる。
			・観察・実験に対する興味・関心が強く、積極的に取り組む児童が多い。「授業評価」にも、「学習を通してできるようになった」「学習事項に、約90％の児童ができた」と回答している。一方で、「恥ずかしさから自分の考えを発表できなかったり、実験を友達任せにしたりする児童もみられた」。	・児童の興味・関心をもてる単元の導入を工夫し、児童の疑問などから問題を設定していく。 ・グループを生かして発表の機会を増やすや、問題解決に自信をもてる時間ようにする。
音楽	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・音楽の音色と演奏の仕方の関わりについて理解し、全体のひびきのバランスに気を付けて演奏できるようになった。学習評価でも、91％の児童が学習したいことや解決したいことを考えながら学習できたと回答している。 ・感染対策により活動に偏りがあつたため、重なり合う音の響きを感じて歌う技能は、十分に身に付いていない。	・タブレット型端末のソフトを活用した音楽づくりの活動も取り入れ、幅広い場面で知識や技能を活用できるようにする。 ・楽器の演奏技術でつまづいている児童に対しては、タブレット型端末のクラスルームに教師の演奏の映像を載せ、自分のペースで繰り返し練習できるようにする。 ・重なり合う音の響きを感じ取る常時活動を計画的に設定する。
			・聴き取ったことや表現した内容の自分の考えはまとめることができたが、友達に説明しながら伝えることとなると、授業評価の結果が22％の児童が否定的な回答をしている。	・感染状況を鑑みながら、ペアや少人数のグループで自分の考えを友達に伝える時間を十分確保するようにする。 ・自信をもって考えを伝えられるよう、よい点について具体的に価値付けする。
			・授業評価の結果から、自分なりの目標をもち、既習の知識や技能を生かしながら表現を高めていこうとしている児童は多い。 ・友達と話し合うことで自分の考えが広がりたと感じている児童は多いが、その後もう一度自分の考えをまとめ直したかとなると、23％の児童が否定的な回答をしている。	・タブレット型端末を使った活動の振り返りや、活動を通して自分が何を新しく学び何ができるようになったか、自分でできるようにする。 ・友達と話し合った後、もう一度自分の考えをまとめる時間をとり、表現に生かしたり鑑賞のまとめを促すようにする。
図工	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・動き、実行、バランスなどを理解し、表したいことに合わせて表し方を工夫しようとするが、材料や道具の特性を生かして工夫して表すことには課題がある。授業評価でも「学習を通してできるようになったこと」が25％の児童で「よくできた」と回答している児童は約40％である。	・材料や道具の使い方や使い方の工夫など、映像を見たり、互いに紹介し合ったりして、表現の工夫の幅を広げられるようにする。 ・問題解決の場を多く設定して一人一人が選べるようにしたり、教師の声掛けを行ったりすることで、児童が課題を見付け、解決できるようにする。
			・材料などか感じたことや想像したことをもとに表したいことを見つ、形や色、材料の特性、構成の美しさなどの感じを考ながら、どのように表すか考えることに課題がある。授業評価でも「学習したいことや解決したいことを考えながら学習できた」の項目で「よくできた」と回答している児童は約半数である。	・授業の導入時に様々な作品を紹介したり、試してつくってみたいする時間を十分に設定し、発想の幅が大きく広げられるようにする。
			・友達の作品からよさや面白さを見て、伝えることができる。主体的に作り出す姿勢が弱く、授業評価でも、約15％の児童が「授業中にこれまでの学習を生かして次の時間に学習したいことができた」に否定的な回答をしている。	・活動途中にも、児童が互いの作品を見合う機会を多く設定し、作品をつくり出す興味、関心、意欲がより高められるようにする。
体育	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・運動経験に大きな差があるため、様々な運動領域において技能面でも力の差は顕著であるが、「授業評価」では「学習のめあてを達成するために、自分なりの目標を持つことができた」では96％、「学習したいことを考えながら学習できている」では100％の児童が肯定的な回答をしている。	・タブレット型端末を活用し、よい動きを児童に見せたり、児童が自分の動きを撮影して実際に見ることで動きのコツや改善点を理解したりしながら、それが知識となり、技能の向上につながっていくようにする。
			・自己の能力に応じて課題を見付け、動きを身に付けるために活動を工夫する力や考えたことを友達に伝える力が弱い。「授業評価」においても、「自分の考えの理由を説明しながら友達に伝えることができた」と回答する児童も、「もう一度自分の考えをまとめ直す」という質問項目に否定的な回答をしている児童が多い。	・学習カードを有効に活用し、児童の思考が教師にも随時伝わるようにする。 ・問題解決の場を多く設定して一人一人が選べるようにしたり、教師の声掛けを行ったりすることで、児童が課題を見付け、解決できるようにする。
			・ルールを守り友達と協力して楽しく体を動かすことができる児童が多い。 ・苦手なことや「やってみよう」という意欲をもつ児童が多い。「授業評価」では、100％の児童が「学習してできるようになったことを実感できている」と回答し、95％以上が「友達のよさや自分の考えに気づくことができた」「自分の考えが広がった」と答えている。	・学習カードのやりとりで、個に応じたスモールステップの課題設定を行い、「できそうだな」「やってみよう」という意欲を高める。 ・グループ学習を取り入れ、友達と協力したり励まし合ったりする機会を多くする。 ・場の設定やルールを工夫する。
家庭	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・「授業評価」の質問項目「学習を通してできるようになったことを実感している」に対して90％の児童が肯定的な回答をしていることから、食・食・住についての知識や技能が身に付いて感じていることがわかる。実態には、個々の生活経験により、基本的な技能の差が大きい。	・デジタル教材や実物投影機、タブレット型端末を活用することで、一つ一つの手順を正確に理解させる。個人的な経験の差によりつまづき予想されることについては、部分的に技能の指導を行った上で取り組ませる。
			・1学期の家庭科学習「生活時間」「朝食」「夏の生活」がいずれも児童の経験から帰納的に考えまとめでてく内容であったこともあり、新入生に情報を集めるよりも経験と交流することが多かった。「授業評価」でも「考えをまとめるために必要な情報を選ぶ」「考えの理由を説明しながら友達に伝える」の項目では従25％の児童が肯定的な回答をしている。活動を通して、課題解決に向けて実践した結果を振り返り、考えたことを発表したり、他者からの意見を踏まえて改善方法を考たりする力については、個人差が大きい。	・2学期からの学習「献立・調理」「冬の生活」「地域との関わり」では、めあてに沿って課題を設定し、タブレット型端末を活用して情報を集めたり考えを交流したりする時間をつくる。 ・自分の考えを深めたり明確にしたりにするために、友達と意見交換や作品を見合う時間を意図的に設定する。
			・活動への興味関心が高く、意欲的に取り組んでいる。「授業評価」でも、90％の児童が「単元や授業で、学習のめあてを達成するために自分なりの目標を持つことができた」と回答している。	・児童の身近にある題材や生活経験をとり上げたり、実物を具体的に提示したりする。 ・学びの連続性を重視し、児童が学校で学んだことを家庭で実践する機会を確保する。 ・実践後に感想を書いたり児童に伝えたりするなど、保護者にも協力求め家庭との連携を図る。
総合的な学習の時間	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・全生園の学習では、身近な場所であることから始まり、「病気や薬、治療方法」「病気・病者への差別」「ハンセン病にまつわる事件や裁判」「療養所の生活」など自身が設定したテーマについて、ハンセン病資料館見学や書籍やネットから多くの知識を得ることができた。 ・資料やインターネットから、多くの情報を得て知識を増やすことができる。	・毎時間の振り返りを大切に、「なぜだろう？」という疑問や「もっと詳しく知りたい」という意欲を大切に。 ・一人一人が自己のテーマをしっかりと定めてから情報を集めることで、より探究的な学習になるようにする。
			・学習の中で感じたことや疑問に感じることから自己のテーマを設定し、情報を集めてまとめることができた。まため方、表現の仕方、発表の仕方に関しては、個々に差がある。	・互いに聞き合うことや保護者、下級生に向けての発表の場を設けることで、相手を意識した表現を学べるようにする。 ・相手意識をもった説明の仕方、表現の仕方については、他教科の学習の中で指導していく。
			・全生園の学習を通して、人権や差別などの問題に向き合い、考えを深めていく児童が多く見られた。この学びを、これからの生活にどうに生かしていくか、自身の行動に活かしていくことが今後の課題である。	・折に戦い全生園の学習を振り返らせ、人権や差別について考えるときや自身の行動を決定する際に生かしていくようにする。
外国語	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・文字やセンテンスを書き写したり、自分や言葉を選択して作文をする力がついている。授業評価の結果でも、「課題を解決するために必要な情報を集めることができること」について96％の児童が肯定的な回答をしており、授業での学習内容に留まらず自分の「伝えたい」という気持ちを英語で表現しようとする児童が多い。	・外国語やeタイムの時間で書く活動を継続的に取り入れる。引き続き、表現に慣れ親しんでから段階的に書くという流れを大切に英語を書くことへの負担を減らしていく。
			・授業で初めて出会う表現について、既習事項や普段使っている言葉や文法に必要な内容を調べることができている児童が多い。授業評価でも、「授業中にこれまでの学習を生かして次の時間に学習したいことができた」と回答した児童は80％以上おり、学びを生かしている。	・インターネットを活用し、英語が実際に使われている場面を見て、初めて出会う表現を聞き取る体験を増やす。 ・タブレット型端末でGoogleスライドを使用した発表活動・コミュニケーション活動の時間を設定し、分りやすく伝え工夫を考えたり相手の言っていることを見分かったりする経験を重ね、相手意識を高めていく。
			・授業評価から、学習を通してできるようになったことを実感している児童の割合は80％ほどで、20％の児童は自身の学びの成長を実感する視点での振り返りに難しさを感じている。 ・コミュニケーションを円滑にする相づけを自然なタイミングで使用できる児童が増えてきた一方で、個人差は大きい。	・型にはまった会話にとどまらず、相づけや感想を述べて自分の思いを伝えるような会話モデルを、教師が率先して示す。 ・英語で会話することが苦手な児童には、学習活動を事前に担任教師と共有し、活動時には担任して個別支援ができるような体制をとる。
道徳	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・資料を読み、登場人物の心情や気持ちの裏側、主題について考え、自信の考えを書いたり発表したりすることができる。 ・資料を通して学んだことが、児童の生活の中にかかっているとは言えない時がある。 ・自己肯定感が低く、自分のよさを見付けられていない児童が多い。	・多面的・多角的な考えができるように、タブレット型端末(ジャムボード等)を活用し、児童が友達の意見に触れ、自身の考えを整理する機会をより多くつくる。 ・これからの生活に活かしていくという気持ちをもてるように、振り返りの時間を大切に。 ・互いの考えを互いに尊重し、友達のよさを感じると同時に自分のよさも認められるようにし、一人一人の自己肯定感を確かなものにしていく。
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・「授業評価」の結果から、自分なりの目標をもち、既習の知識や技能を生かしながら表現を高めていこうとしている児童は多い。 ・友達と話し合うことで自分の考えが広がりたと感じている児童は多いが、その後もう一度自分の考えをまとめ直したかとなると、23％の児童が否定的な回答をしている。	
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	・観察・実験に対する興味・関心が強く、積極的に取り組む児童が多い。「授業評価」にも、「学習を通してできるようになった」「学習事項に、約90％の児童ができた」と回答している。一方で、「恥ずかしさから自分の考えを発表できなかったり、実験を友達任せにしたりする児童もみられた」。	